

令和5年度第3回 小田原市子ども・子育て会議 会議録

日 時：令和6年2月2日（金） 10：00 から 11：40 まで

場 所：市役所本庁舎 7階 大会議室

出席者：吉田 眞理会長、都築 顕道副会長、小原 敏郎副会長、山田 謙吾委員、
柏木 成美委員、石坂 このみ委員、川向 由起子委員、岩崎 美一委員、
藤本 明美委員、武藤 保之委員、佐々木 陽子委員、島田 風花委員、
横田 俊一郎委員

山下子ども若者部長、中井子ども若者部副部長、
鈴木子育て政策課長、竹内副課長、渡邊子育て政策係長、相原主任、
高橋子ども若者支援課長、茂川副課長、前島保育課長、
高瀬施設整備担当課長、筒井青少年課長、岡田教育総務課長、
小林教育指導課指導主事

欠席者：川本 桂子委員、遠藤 貴文委員、増田 房子委員

会議次第 1 あいさつ

2 議題

- (1) 「こども大綱」及び「市町村こども計画」の策定について
- (2) 子どもの貧困対策推進について
- (3) その他

要旨は次のとおり

議題

(1)「こども大綱」及び「市町村こども計画」の策定について

資料 1-1、1-2、1-3 に基づき事務局より説明

武藤委員 「こども大綱」の内容はとても素晴らしい内容だと思うが、もっと早い時期に示されてほしかったと思います。

都築副会長 12月22日に閣議決定された「こども大綱」だが、県も「都道府県こども計画」の策定努力義務が課せられています。神奈川県について、「県こども計画」の策定について、模索中の状況だと思いますが、小田原市が「市こども計画」を策定する場合に、神奈川県の動きとよく擦り合わせて作業を進める必要があります。どうやって神奈川県と擦り合わせをしていくのか、また、今後、小田原市は、どのようなスケジュールで計画策定作業を進めて行く考えですか。

事務局 まず、神奈川県との擦り合わせの仕方についてですが、現時点で、具体的に神奈川県から方法を示されている訳ではありません。ただ、これまで子ども・子育て支援事業計画の中間見直しの際や、他の分野の計画を策定した際には、市計画の策定途中のものを神奈川県へ提出したり、神奈川県の職員と直接ヒアリングするような機会を設けるなどしながら、擦り合わせを行っております。「市こども計画」の策定でも、そうした機会を通じて、擦り合わせ作業を行っていくものと想定しています。しかしながら、「県こども計画」も「市こども計画」も国から示された「こども大綱」を勘案して策定するものですので、神奈川県と本市で計画の考え方や内容が大きく異なってしまうようなことはないと思います。いずれにしても、齟齬がないよう調整してまいりたいと考えています。

次に、スケジュールについてです。まだ正式にみなさんへお諮りしておりませんが、「市こども計画」を策定するとなった場合には、子ども・子育て会議でご審議いただきたいと思います。そのうえで、来年度のこちらの会議の開催予定ですが、例年と同じように年3回開催し、時期は夏・秋・冬を予定しています。令和4年度に「小田原市子どもの貧困対策推進計画」を策定した際と同じようなスケジュールを考えており、まず初回で、計画の骨子をお示しし、みなさんからご意見を頂戴したいと考えております。みなさんからいただいたご意見を踏まえて、計画骨子に内容を膨らませたものを、第2回会議にはお示しし、詳細を詰めてまいりたいと考えております。その後、パブリックコメントを実施し、市民の方からご意見をいただき、第3回会議には計画の最終版をお示しし、確定してまいりたいと考えております。

会長 来年度こちらの会議のスケジュールについて、子ども・子育て会議におい

て、「市こども計画」を策定するという暗黙の了解のような中で、事務局から説明がありましたが、資料 1-1 のとおり、「市町村こども計画」は、「こども施策」に関する事項を定める計画と一体として策定できるとありますが、小田原市として、「こども計画」を一体的に策定した方が良いと、委員のみなさんはお考えでしょうか。

また、「市こども計画」を策定するとなった場合、「こども大綱」を勘案しなければなりません。資料 1-1 のとおり、「こども大綱」は「少子化社会対策大綱」、「子ども・若者育成支援推進大綱」、「子どもの貧困対策に関する大綱」の3つを一体的にしたものです。他の自治体では、子どもの貧困対策について審議する会議体を別にもっている自治体もありますが、小田原市では、「子ども・子育て支援事業計画」に加えて、子どもの貧困対策について、子ども・子育て会議で審議し計画を策定しています。小田原市は、子ども・子育て会議の他に、「青少年未来会議」があります。「市こども計画」を策定するとなった場合には、この2つの会議の意見を擦り合わせる必要もあると思います。

委員のみなさんからは、小田原市として「こども計画」を策定した方が良いのか、また策定する場合は、こういった場で進めていったら良いかなどご意見いただきたいと思います。いかがでしょうか。

武藤委員

子ども・子育て会議において、審議を進めていくのが良いと考えます。子どもの育ちにおいて、今一番課題なのは、幼少期における家庭教育が不足していることだと考えています。昔は、おじいちゃん・おばあちゃんや近所の人など、大勢の大人に触れながら子どもが育ち、道徳心を育むなど、子どもの人格形成にとっても良い環境がありました。しかし、今は昔と比べると、そのような機会や環境がないため、小学校に上がった後、様々な問題が起こっています。子どもや子ども支援に関する色々な支援や制度を整えることも大切ですが、幼少期の家庭教育を充実させることが最も重要だと思います。

小原副会長

確認ですが、今年度第1回会議において子ども・子育て会議では、令和6年度に「第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定について審議をする、令和7年度から「第3期支援事業計画」が走り出すという説明があったと思います。「子どもの貧困対策推進計画」は「子ども・子育て支援事業計画」に包含されていますが、令和6年度は、第3期支援事業計画の策定に合わせて、「市こども計画」の策定作業をし、さらに加えて、子どもの貧困対策や子ども・若者育成支援に関することも審議するという理解でよろしいですか。

事務局

おっしゃるとおりです。我々もまだ案の段階ですが、「市こども計画」を策定するとなった場合は、こちらの子ども・子育て会議でご審議いただきたいと考えて

おります。

会長

小原副会長がおっしゃられたように、現在、「子どもの貧困対策推進計画」は、「子ども・子育て支援事業計画」に包含されています。子ども・若者育成支援のことは、青少年未来会議で審議をされています。そのような中で、国から「こども大綱」が示されて、年代で切れ目があるのではなく、縦断的に一体的に支援を考えていきたいと思いますという動きがあります。それを踏まえて、小田原市が具体的にどう動いていけば良いかという中で、令和6年度「第3期支援事業計画」の策定を審議する際、「市こども計画」も合わせて策定作業を進めて行くという方針はどうかということですね。その場合、子ども・子育て会議がある程度主体的に「市子ども計画」について審議を進めて行くということになり、委員のみなさんにも関係することになります。小田原市の方針について、みなさんいかがでしょうか。

横田委員

小田原市が「市こども計画」を策定することについて賛成です。「こども大綱」が示されたため、全国的に目指すところは同じだと思いますが、計画を策定するとなった場合、小田原市としての課題は何かを洗い出すことが必要だと思います。個人的には、出生率が低下していることや、教育が市内で完結しないため、市外へ出てしまう方が多いという点が課題だと感じています。「こども大綱」のように全国統一的な課題に対する計画ではなく、小田原市特有の課題は何かということも合わせて、こちらの会議で審議することも大切だと思います。

会長

小田原市に必要なサービスや、特有の課題については、現在、保護者や若者に向けたアンケート調査の結果が出てきた上で、こちらの子ども・子育て会議で審議できると思います。横田委員がおっしゃられたように、小田原市の課題を洗い出す作業というのはとても重要なことだと思います。ご意見としては、「子ども・子育て支援事業計画」と「市こども計画」を一体的に策定していくということによろしいでしょうか。

横田委員

はい。

会長

他にいかがでしょうか。

柏木委員

こちらの会議の委員になるまで、正直申しまして、国で「こども大綱」を作成していることや、それに伴い自治体で「こども計画」を策定する必要があるということを知りませんでした。さらに、小田原市で子育て支援や子どもたちの未来を考えるための、こういった会議や計画があることも知りませんでした。今回、アンケ

ート調査をするにあたり、アンケートが手元に届いた人は小田原市で計画を作ろうとしている動きが分かりますが、アンケートが届かなかった人はなかなか知る機会がないと思います。毎日生活をしている中で、わざわざ市のホームページから子どもや子育て支援に関する制度を調べることはしないと思うのです。なので、少しでも多くの人の目に留まるように、市が取り組んでいることについて進捗状況が分かるように、より積極的に情報発信を行うと良いと思います。

会長 市としてどのように広報に努めているかについてお願いします。

事務局 柏木委員のご指摘のとおり、広報に関しては我々も課題だと感じています。計画のことはもちろんですが、様々な子育て支援施策について、市民の方から知らなかったというように言われてしまうこともあります。例えば、身近な広報の方法ですと、広報紙に情報を掲載するということがあります。令和5年度については、子どもや子育て支援に関する特集記事を3回掲載しました。子育て支援制度を並べて紹介するような記事や、ファミリー・サポート・センターを特集した記事、そして子育て支援特集を行いました。このように、機会を捉えて、市民の方に向けて紙面を活用して広報していくという方法もございます。また、もう少しSNSを上手に活用して情報発信をしていかれたら良いなと考えております。

会長 情報の伝達ということですが、こちらの会議の委員のみなさんは、名簿を見ていただくとお分かりになると思いますが、様々な団体からご参画いただいています。そのため、委員のみなさんが個人的な意見を、この会議の場で発言するのではなく、会議で知り得た情報を、各委員が、ご自身が所属されている団体に情報提供し、そこで何か意見が出たら、それをこの会議でご発言をいただきたいのです。なので、行政だけではなく、委員のみなさん一人ひとりも情報を伝達し、収集する役割を担っていることを改めてご理解いただくとともに、ぜひご協力ください。

他にご意見いかがでしょうか。

藤本委員 市町村独自の「こども計画」を策定することについて、神奈川県と擦り合わせながら策定していくことに賛成です。学校教育の現場の立場から意見いたしますと、学校は同じことをやっていると思われがちなのですが、子どもたちの地域の実態や社会の状況に応じて、毎年教育内容や教育活動を見直しています。

保護者や若者など幅広い市民を対象にアンケート調査をした上で、「市こども計画」を策定する場合、子どもや若者に関する支援や教育に関することも、トータル的に捉えることが出来るので良いと思います。教育現場では地域の実情を反映しつつ、市の全体的な方針である「市こども計画」と擦り合わせながら、

教育内容等を検討することもできると思います。そういった意味でも市独自に「こども計画」を策定することは良いと思います。

会長 「市こども計画」を策定することに賛成ということではよろしいでしょうか。また、「市こども計画」を策定する際は、「子ども・子育て支援事業計画」や「子どもの貧困対策推進計画」並びに「子ども・若者計画」と合わせて策定していくことでよろしいでしょうか。

藤本委員 はい。

山田委員 私も「第3期支援事業計画」と「市こども計画」を一体的に策定していくことについて賛成します。先ほど横田委員から、小田原市特有の課題を洗い出すことが大切ではないかというご意見がありましたが、私もそのように考えます。先日、小学校の PTA と市長との意見交換がありました。その際に、東京から転入して来られた保護者の方も参加していたのですが、小田原市の良いところをお話されていました。このように、市外・県外から小田原市へ転入されて来た方に対し、小田原市の良いところ・悪いところを聴いてみるのも良いのではないかと思います。また、出生率が高い自治体や、子育て支援が手厚かったり、先進的な取り組みをしている自治体の取組について研究するのも良いのではないかと思います。

会長 基本的には賛成ということですね。また、今行っているニーズ等調査の結果以外に、転入者から見た小田原市に対する意見や、他市町村の情報なども、「市こども計画」を策定する場合には、市から提供してもらいたいということですね。よろしくお願いいたします。

岩崎委員 当然、特色ある自治体で計画を策定することは大切だと思いますので、「市こども計画」を策定する方針について賛成です。また、いかに実行性がある計画にしていくかが大変重要であると考えため、そのあたりをどのように担保していくかというのを今後検討していく必要があると思います。

会長 実行性ということで、「市こども計画」を策定したことで、小田原市のここが一步でも二歩でも進んだと分かるようにすることは大切ですね。今まであったものを別の表に移し替えるだけでなく、国から指標も示されていますし、さらに子どもや若者の未来に希望が持てる内容になると良いですね。基本の方向性については、賛成していただいているということで、ありがとうございました。

島田委員

私も「市こども計画」を策定することは賛成です。具体的で実行性のある内容にしていくことが求められていると思います。私自身、県外から転入をして来ましたが、小田原の人は本当に温かい人が多いと、日ごろから感じています。外を歩いていてもよく声をかけていただけますし、先日、子どもと自分だけで外出したのですが、様々な場面で手を差し伸べて助けていただきました。人柄の良さが、良いところだと思います。そういった部分をアピールして住みよいまちになれば、転出される方も減るのではないかと考えます。

一方で、買い物など外出する際の移動が、車がないと難しいという声を周りのお母さんたちから聞きます。特に都内から来られた方だと、車を持っていない方、運転免許を持っていない方も多く、子育てをしながら免許を取ることは、とてもハードルが高いと感じられている方も多いようです。そのため、運転免許を取得しやすくするとか、車を確保しやすくするといった制度を整えたり、または、車がなくても、バスや電車など公共交通機関を利用して移動しやすくなると、もう少し小田原市全体が活発になるように思います

会長

「市こども計画」の策定に関する基本方針には賛成とのご意見をいただきました。

佐々木委員

「市子ども計画」を策定していくことについて賛成です。現在実施しているニーズ等調査の結果から、子育て家庭や若者からのニーズも拾えると思うのでそういった意見をいかに具体的に計画へ落とし込めるかが、重要になってくるのではないかと考えます。小田原市は切れ目のない支援を継続的に実施していくことを大切にしていると思うのですが、周りにいるお母さんから、子どものことでどこに相談したら良いか分からないということも聞くので、そういった部分も、より具体的にになると良いなと思います。

「おだわら子ども若者教育支援センター（はーもにー）」ですが、子どもや若者に関する市の総合相談窓口になっていると思うのですが、相談のため利用した際、施設の3階まで上がって部屋に入ると、職員の方が大勢座っていて、相談のための最初の一言がとてもかけづらいと感じています。職員の方は、お仕事をされている中で、どなたに声をかけたら良いかとても分かりにくく、非常にハードルが高いと思っています。もう少し、相談しやすい雰囲気になると良いなと思います。

また、医療について、特に子どもの発達に関することで相談に行くと、遠方の病院へ受診を薦められることもありました。また、療育機関で検査をした際に、検査結果が専門的な内容であるため、教育現場でもきちんと共有できるのか、課題があると感じました。

体制の整備とともに、関係機関同士のネットワークがより強化されていけば、

安心して子育てでき、子どもが成長できるまちになると思います。

会長 具体的な例を挙げてくださいありがとうございます。ニーズ等調査の結果からも色々と見えてくるかもしれません。

川向委員 「市こども計画」を策定することは、とても大切なことだと思いますので賛成です。私が住んでいる地域は、小田原市の中でも高齢化率が高い地域です。地域のまちづくり実行委員会にも参加しているのですが、高齢者と子どもが交流できる活動を企画しています。子ども自身が地域の人に見守られながら成長していると実感できたり、子育てについて、お父さんお母さんだけで抱え込まず、気軽に相談して良いよという地域づくりを目指しています。そのような地域づくりを行っていても、やはり市外へ転出される子育て家庭の方は、これまで何人かいらっしゃいました。

「市こども計画」を策定する場合には、子どもや若者に関するだけでなく、核家族の方が、地域の高齢者との交流を通じて子ども育てる喜びや安心感を得られるような、温かい文言があると良いなと思いました。

会長 小田原市の民生委員児童委員の方々は、地域の中に入り込んで根気強く活動を続けていらっしゃいます。計画の具体的な内容を検討する段階に入った際は、また、ご意見をいただきたいと思います。

石坂委員 「市こども計画」の策定に関して、賛成です。他の委員の方もおっしゃっていましたが、様々な計画が既にあるので、いかに実行性がある内容にしていくのが課題ではないかと思います。また、ニーズ等調査以外でも、例えば、保育園や幼稚園を通して、保護者に意見聴取することも色々な意見が拾えるので良いのではないかと考えます。

私自身も子どもが小さいとき、地域の民生委員児童委員協議会が主催しているサロンに良く参加していたのですが、地域のおじいちゃんがサンタクロースの格好をしてとても楽しかったです。その時にお友達になった方とは、今でも交流があります。このような地域の活動は、小田原市のとても良いところだと思うので、「市こども計画」の中にも盛り込むなどし、PRできると良いと思います。

会長 ありがとうございます。

色々と具体的なご意見もいただきましたが、子ども・子育て会議としては、「第3期支援事業計画」と「市こども計画」を一体的に策定していくということによろしいでしょうか。

委員 異議なし

会長 また、今後のことになりますが、青少年未来会議と意見を擦り合わせていくことが必要になってきます。青少年未来会議の前身である青少年問題協議会の中から、私は子ども・子育て会議の会長として、当該会議へ参加をしておりますので、連携ができるのではないかと考えております。また、市役所内でも担当課同士で情報を共有しながら進めていっていただけたと思います。

たくさんご意見をいただきましたが、具体的な内容は、来年度計画を具体的に策定する際に、また、ご意見をいただきたいと考えております。

まだ、決定ということではありませんが、子ども・子育て会議の役割としては、来年度、第3期子ども・子育て支援事業計画に加えて「市こども計画」の策定についても審議をするということでした承されました。

議題

(2)「子どもの貧困対策推進」について

資料2に基づき事務局より説明。

会長 こちらのチラシは完成したら、市内の様々なところで配布されるのでしょうか。

事務局 はい、配布し周知を依頼する予定です。想定としては、庁内連絡会を構成する関係課や子育てや若者を支援する関係団体等に配布するとともに、経済部を通じて、民間企業や商店等にも配布をしたいと考えております。

石坂委員 「おだわら子ども若者教育支援センター(はーもにー)」ですが、先ほどもご意見がありましたが、相談することについてとてもハードルが高いと感じています。施設の雰囲気のほか、平日に仕事をしている方は、相談したくても時間が取れなかったり、電話ができない方もいらっしゃると思います。相談が対面であることに對しても敷居が高いなと感じます。最近の子育て家庭にとっては、連絡手段としては、メールの方が身近であるため、電話のほか、メールで相談が出来るようになったら、もっと使いやすくなると思います。このようなチラシには、メールアドレスも記載してあると良いと思います。

会長 チラシの記載に合わせて、「はーもにー」の相談の受け方についてご意見いただきました。

子ども若者支援課長 市民の方にとって親しみが持てるような雰囲気づくりについては課題であると考えております。いただいたご意見は、課内でも共有し、こういったところが工

夫できるか検討したいと思います。

また、メールについてですが、簡易的な内容であれば、メールでのやりとりも可能かと存じますが、困りごとの相談となりますと、メールでは読み取れない部分もあり、受け取った側が誤った解釈をしてしまうこともあるため、可能な限り対面での相談対応にご協力をいただいております。

さらに、閉所後の時間外の対応についてですが、これは市全体的な課題であり、すぐには解決が難しい課題であると思います。いただいたご意見は課内でも共有させていただきます。

会長 小田原市としては、土日も空いている相談窓口は設置していないのでしょうか。他の自治体では、土日も相談窓口を設置しているところもあるので、小田原市にもあると良いなと思いました。

また、メールについてですが、相談の予約受付だけでもメールで出来ないのでしょうか。

子ども若者支援課長 市で土日に開設している相談窓口はございません。

また、現状、相談の予約受付については、メールでは行っておりません。ただ、市ホームページの下に「この情報に関する問い合わせ先」というのがあり、問合せフォームをクリックし、必要事項を入力して送信していただくと、当課へメールが届くような仕組みにはなっています。

石坂委員 市のホームページで、「はーもにー」のページを見ても、メールアドレスが記載されているのが分かりにくく、資料のチラシにも記載がなかったのもう少し分かりやすく表記していただくと良いと思います。

会長 最近では、電話番号は載せずに、メールアドレスをのみを記載する場面も多いように感じます。現代の子育て家庭にとって、メールの方が身近だと思いますので、アドレスも記載していただけると良いと思います。

「はーもにー」についてですが、私ももっと利用しやすくなれば良いと感じています。例えば、子育てひろばのようなものを常設したり、親子で遊びながら、相談につながるような流れが作れると良いと思います。本当に困っている方で、自分で電話ができるだけの力がない方などは、施設の前を通っても、入りにくいなと感じると相談しなくなってしまいます。季節の行事やイベントを行ったり、相談という目的がなくても、日ごろから親子で遊べる施設として存在していることで、気軽に相談できることにつながると思います。

佐々木委員 「はーもにー」のことについてですが、施設の1階に「子育て世代包括支援セ

ンター(はっぴい)」がありますが、非常に奥まったところにありますよね。やはり、こちらも入りづらい雰囲気なので、親しみやすいように改善されると良いと思います。

また、同じ階に「つくしんぼ教室」の分園があるので、「はっぴい」や「は一もにい」の保健師などに相談をしながら、色々な療育施設に繋がっていけば、お母さんが一人で子育てを抱え込むことは少なくなると思います。

会長

ありがとうございます。入りやすさという点から言うと、小田原市の子育て支援センターはどこも入りづらいですね。他市の子育て支援センターで駅前に設置されている施設があるのですが、エレベーターを降りたら全面ガラス張りで、そこに必ず保育士が1名います。そして、子どもを連れた保護者の方が、エレベーターから降りて来て、施設に入るのを躊躇されている姿を見つけると、ぱっと出て行って「どうされましたか？」と声をかけるのです。それが必要だと思います。悩んでどうしようかなと迷っている人の手をぐっと掴んで帰さない。そして、やっぱり来てよかったと思ってもらえることが必要だと思います。勇気を出してきてくださいでは、いつまでも使いやすい施設にはならないですね。施設に入りやすい工夫を求めたいと思います。

川向委員

我々が活動している「地域子育てひろば」では、折り紙などでかわいらしく装飾した看板を入口に設置するなどして、入りやすい雰囲気づくりを意識しています。

チラシに関してですが、「は一もにい」の「④若者に関する相談」についてですが、発達や社会生活などに課題がある若者も相談できるのでしょうか。今でこそ、子どもの発達障害が注目され、早い時期に周囲の大人が気づき、支援につながりやすくなっていると思いますが、今の20代、30代の方が子どもだった頃は、何か課題を抱えていても見過ごされてしまうことが多かったように思います。いわゆる、グレーゾーンの方と言いますか、障害認定されないような若者の場合ですが、「④若者に関する相談」の「困りごと」のところに、発達障害という言葉を使ってよいか分かりませんが、そのような悩み事も相談できるように記載するのか、別の相談窓口があれば、然るべき、相談窓口を追記していただきたいと思います。

会長

若者くらいの年代になると、本人が自分で相談に行くことに躊躇する方も多いいと思います。親御さんが見ても分かるように「困りごと」の部分に、もう少し幅広い内容を追記してもらえると良いと思います。

佐々木委員

以前、通信制高校に勤務していましたが、不登校や発達に課題がある子が

利用することが多かったです。一旦、学校に行かれなくなり、そのまま引きこもりになってしまうと、インターネットゲーム依存などの心配もあり、社会に復帰することが大変困難になってしまうケースもあります。そのため、幼少期からきちんと継続して支援を受けていくことが大切だと思います。小田原市では、「はーもにー」がその支援の軸になると思います。

会長 幼少期からの支援と、川向委員がおっしゃられたように、途中で見逃されてしまった子どもたちへの支援が大切ということですね。

川向委員 「はーもにー」ができる前は、発達に課題がある若者に関して、「おだわら障がい者総合相談支援センター（クローバー）」へ相談したこともありますが、対応が難しいと断られてしまいました。切れ目のない支援を掲げている「はーもにー」ですので、こういった方たちの相談も受けてもらえるのか確認したく、意見しました。

会長 子どもだけでなく、若者にまで手を伸ばした施策を「こども計画」では作るので、その時に、ご指摘いただいた課題も入れないといけないと思います。子どもの頃には診断がつかなくても、成長し就職した後にうまく会社へなじめず、転職を繰り返していた方で、実は本人に障がいがあったと分かり、障がい特性が分かることにより、職場でもうまくいくようになったという事例も聞いたことがあります。若者が必要なときに必要な支援が受けられる体制も整えていきたいですね。

来年度の会議でもまたぜひご意見ください。

小原副会長 相談窓口や事業ごとに、相談先として課名と電話番号が記載されていますが、同じ相談先が続いている箇所は、1つにまとめて記載した方が見やすくなると思います。

会長 例えば、子どもの年齢別に、困りごとから相談先に行きつくような、フローチャート図のようなものがあると、市民の方に手に取ってもらいやすいのではないのでしょうか。

また、児童相談所が入っていないのですが、その点に関してはいかがでしょうか。

岩崎委員 このチラシは市の相談機関ということで整理されているのかと思いますが、児童相談所は虐待だけでなく、子育て全般の相談も受付けている場所です。

- 会長 児童相談所には専門職の方もいます。神奈川県の間関ではありますが、小田原には行きやすい場所に児童相談所ありますので、追記していただくと良いと思います。
- 岩崎委員 先ほど、いわゆるグレイゾーンの方というお話もありましたが、児童相談所に相談していただければ、例えば、心理職が心理検査をして、お子さんの特性についてアドバイスができます。また、児童相談所では確定診断までは出来ませんが、お子さんの状況に応じて、クリニックのご案内などが出来るのではないかと思います。
- 会長 市を通さなくても、直接、児童相談所へ相談に行っても良いのでしょうか。
- 岩崎委員 はい、そうです。
- 横田委員 「(6)神奈川県・LINE 相談に関する事」に入れてはどうでしょうか。
- 会長 そうですね。児童相談所はとても大切な機関だと思いますので、ぜひ追加してください。
- 藤本委員 先ほど連絡をする時間が平日に限られてしまうことや時間外の対応についてご意見がありましたが、児童相談所は緊急時の連絡先があると思います。そのような連絡先も掲載しておくが良いと思います。
- 会長 「＃189」のことでしょうか。
- 岩崎委員 「＃189」に加えて、「かながわ子ども家庭 110 番」もあります。LINE 相談はすでにチラシに掲載されていますが、電話相談もあります。
- 藤本委員 土日や夜間の連絡先が分かりやすく記載されていると良いと思います。あと、「はーもにー」については、学校の立場から申し上げますと、目立つ形で周知していただくことは本当に大切だと思います。学校は、小学校・中学校と分かれていますので、「はーもにー」が設置され、切れ目のない支援を推進していこうということで、ずっとサポートしていただけるのは非常に心強いと感じています。学校現場において、支援が必要な児童がいた場合、「はーもにー」をご案内するのですが、保護者の方が知らない場合もあるので、知名度がもっと向上すると支援にもつながりやすくなると思います。

会長 ワンストップ窓口のとても良い施設だと思うので、周知にも力を入れていきたいですね。

島田委員 小田原市が、「はーもにー」をワンストップ窓口として周知したいのであれば、もう少しチラシに掲載する情報を絞って、シンプルにしても良いと思います。個人的には小児科の情報など、色々追加してほしい情報ありますが、たくさん情報があると見るのも大変になってしまうと思います。

また、「はーもにー」が設置される前の話で、子育て支援センターでお会いしたお母さんから聞いた話ですが、子育てのことで、保健センターに数回電話をしたところ、児童相談所に直接電話してくださいと言われてしまったことがあったそうです。そのお母さんは、保健センターの職員に相談をしたくて電話をかけたにも関わらず、そのような対応をされてしまい、落ち込まれてしまったそうです。それで、児相相談所に電話するのはとても勇気がいるし、保健センターにも相談しにくいと、なかなか相談が出来なくなってしまったとお話されていました。電話での最初の関は、本当に大事だと思います。ここで、失敗してしまうと、相手も相談することが億劫になってしまいます。

例えば、保育園や幼稚園の先生に相談した場合、「はーもにー」を案内する際に、「園から電話をしておくので、お母さんも後で電話してみてください」などと言われたら、困っている方も電話しやすくなると思います。

会長 ありがとうございます。困っている方が相談した時に、「はーもにー」へ行ってください、電話かけてくださいではなくて、相談を受けた側が、「はーもにー」へ電話したり、相談の約束まで取り付けてしまって「あなたのことを向こうでは待ってますよ」って言うてくれれば安心して行かれると思います。

実際、そのようになっているのでしょうか。

子ども若者支援課長 基本的には、相手のお話をよく伺った上でそれぞれに応じた対応をしています。「はーもにー」で一旦引き受けてから、関係先に確認した上で、お返しすることもありますし、内容によっては、別の機関をご案内することもあります。

会長 結局、困っている方は、1箇所電話して、そこで別の機関へ電話してくださいと言われたら、もういいやと諦めてしまうのですね。そのため、別の機関の連絡先などを案内するだけではなく、こちらから予約しておきましようとか、困っている方自身が、自分で行かれるなという状況を作っておくことが、すごく必要だと思います。

藤本委員 情報提供としてですが、どちらの機関でもそうだと思いますが、小学校では何か相談を受けた際に、学校の方から連絡を入れておきますので、その後連絡してくださいというような環境は整っていると思います。なので、気軽に学校にもご相談いただければと思います。

会長 活発なご意見をありがとうございました。概ね1週間を目途に、このチラシについてご意見等ございましたら、事務局までご連絡してください。

議題

(3)「その他」

事務局より、「広報おだわら 11 月号」が神奈川県広報コンクールにおいて、最優秀作品に選ばれたことについて報告した。

<質疑なし>

会長 本日の議題は以上になります。皆さん、活発なご意見いただきまして、ありがとうございます。ぜひ、来年度へつなげて行きたいと思いますので、よろしく願いいたします。では、事務局にお返しいたします。

事務局 会長ありがとうございました。今年度の子ども・子育て会議は本日が最終回となります。来年度には、「第3期子ども・子育て支援事業計画」と一体的に「市こども計画」を策定することに取り組んでいく予定でありますので、各団体の皆様にご協力賜りたいと存じます。

以上をもちまして、令和5年度小田原市子ども・子育て会議を閉会といたします。お疲れ様でした。